

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	測量学及び実習（Lecture and Practice of Surveying）		
ナンバリングコード	L30202	大分類／難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 建設基礎
単位数	4	配当学年／開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修:環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース 選択:建築設計コース、建築工学コース、住居・インテリアコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L020202	クラス名	-
担当教員名	池見 洋明		
履修上の注意、 履修条件	環境・地域創生コースの3年生を受講対象とします。他コース、4年生の履修も可能ですが、時間指定、人数制限をしますので希望に沿わない場合があります。1クラス20名、3班(各6～7名)で進め、「全日程の出席」が求められます。***グループ実習において、理由に関係なく1回でも欠席した場合は成績評価できません***。また講義では地理情報システム(GIS)に関する知識を用います。「地理情報処理演習」の履修も行ってください。		
教科書			
参考文献及び指定図書	基礎測量学 改訂2版、長谷川昌弘、川端 良和 著、電気書院 測量実習ポケットブック、岡島賢治ほか、電気書院		
関連科目	地理情報処理演習		

○基本情報		
授業の目的	測量は、全ての建設工事の基礎でありその技術が受け持つ領域は幅広くなっています。本講義では、これらの測量技術が現場で果たす役割を理解するとともに、建設技術者として必要な測量の基礎的事柄を中心に理解します。測量に関する基本的な数学については、電卓を用いた基本計算ができるようにします。測量学では、測量で用いる機器の基本的な原理や使用方法および計算方法を理解することを目標とします。また、測量作業はグループで取り組むことから、班員同士の協力が必要です。(チームで働く力)実際に扱う機器は、レベル・トータルステーション及びGNSS受信機を中心にその基本的事項を修得します。また近年の測量は空中写真やレーザー計測など大規模な地理空間データを取得し、分析し、解釈する技術が要求されています。この点から測量学は数理データサイエンス関連の基礎科目としても重要である。	
授業の概要	以下の内容について、測量士補レベルの講義を行います。 1. 測量の概要、2. 観測地の処理、3. 距離測量、4. 水準測量、5. 角測量、 6. トラバース測量、7. 地形測量、8. 写真測量、9. リモートセンシングとGPS 講義内容の理解度の確認は、毎回の課題と期末テストで行います。 実習は、講義内容に関して、班毎、個人毎に指定された課題に取り組めます。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	双方向に授業に関わる積極性をもつ。			15点
【知識・理解】	距離測量など基本的な測量について理解する。 建設測量の使用機器や方法について説明ができる。	10点	15点	
【技能・表現・コミュニケーション】	レベルの据付・観測、トータルステーション・GNSS受信機 +N16:R23の操作、結果の処理ができる。班員と協力して測量 作業をスムーズに進めることができる。	10点	20点	
【思考・判断・創造】	目的に応じた文章作成、地図などの利用や文献等の適切な 情報を収集できる。	10点	20点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
実習では4～5名の班を作成して進めます。全実習の出席が可能な学生のための受講を認めます。 班による実習を欠席した場合は補填ができません。その場合、実習は未実施となり単位認定はできません。 授業内容の質問は、随時受け付けますし、内容によっては評価でプラスに考慮する場合があります。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。				

○その他
いかなる理由であっても実習の欠席は認めていません。欠席予定のある人は履修を遠慮してください。また、いかなる理由であっても実習を欠席した場合、その後の続行は不可となりますので(手続き上履修中止が不可であっても)途中で履修を中止していただきます。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	測量学及び実習（Lecture and Practice of Surveying） 池見 洋明	授業コード	L020202
学修内容					
1.（講義・演習）オリエンテーションおよび総説 講義・実習のスケジュールおよび評価方法、測量の発達史など概説します。また測量で使用する関数電卓の使用方法に関する演習を行ないます。					
予習		スタートです、がんばりましょう			約2時間
復習					約2時間
2.（講義・演習）オリエンテーションおよび総説 1から続く					
予習					約2時間
復習		教科書の所定の箇所を読み直し、測量の概要について理解する			約2時間
3.（演習）観測値の処理 観測値に含まれる誤差とその処理に関する解説を行ないます。測量を含めた様々な計測において誤差の算定は信頼性の高い結果を得るためにかかせないものです。ここでは測量における誤差、誤差伝搬の法則、最小2乗法の原理などについて基本的な処理方法について学びます。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、観測値の処理の概要を把握しておく			約2時間
復習					約2時間
4.（演習）観測値の処理 2に続き、観測値の処理に関する演習を行ないます。					
予習					約2時間
復習		教科書の所定の箇所を読み直し、課題を行う。			約2時間
5.（講義）距離測量 距離計測は測量の基本であり、距離を測るには巻尺などの単純な器具から電磁波を用いた方法、汎地球測位システムを用いた方法など様々である。この講義では距離を測る使用器具、直接距離測量、関節距離測量、距離誤差と補正、電磁波測距儀による測量等について説明する。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、距離測量の概要を把握しておく			約2時間
復習					約2時間
6.（実習）距離測量 野外にて任意の距離を設定し、巻き尺、歩測、トータルステーションを用いた距離測量の実習を行なう。					
予習					約2時間
復習		教科書の所定の箇所を読み直し、距離測量に関するレポートを完成させる			約2時間
7.（講義）水準測量 水準測量は地表などの諸点の高低差を求めるための測量である。これと平面測量を併用することにより地表を立体的に表すことができる。この講義では、水平線をもとめる機器と標尺を用いて直接に高低差を測定する直接水準測量について解説する。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、水準測量の概要を把握しておく			約2時間
復習					約2時間
8.（講義）リモートセンシングとGNSS 写真測量もリモートセンシングに分類される。この講義では主に人工衛星をプラットフォームとしたリモートセンシングやGPS測量などのGNSS（全地球測位システム）について解説する。					
予習					約2時間
復習		昇降式、器高式野帳の記載方法理解し、課題を完成させる。			約2時間

○授業計画		科 目 名 担当教員	測量学及び実習（Lecture and Practice of Surveying） 池見 洋明	授業コード	L020202
学修内容					
9.（演習）水準測量 昇降式、器高式それぞれの野帳の記入方法、誤差の調整に関する演習を行なう。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、水準測量の概要を把握しておく			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
10.（演習）水準測量 昇降式、器高式それぞれの野帳の記入方法、誤差の調整に関する演習を行なう。					
予習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
11.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
12.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
13.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
14.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		水準測量の実習結果をまとめる			約2時間
15.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、写真測量の概要を把握しておく			約2時間
復習					約2時間
16.（実習）水準測量&GNSS測量 オートレベル、GNSS受信機を使った測量実習及びRTKLIBを用いた基線解析の実習を行う。					
予習					
復習		写真測量の演習を仕上げ、提出する			

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名	測量学及び実習（Lecture and Practice of Surveying）	授業コード	L020202
		担当教員	池見 洋明		
学修内容					
17.（講義）角測量・トラバース測量					
トラバース測量は多角測量とも呼ばれ、水平角と側線の距離を測定して緯距と経距を求めて各測点の座標や面積を求める測量方法である。この講義ではトラバース測量の手順について解説する。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み、リモートセンシング、GNSS、GISについて把握しておく			約2時間
復習					約2時間
18.（演習）トラバース測量					
観測した水平角と側線の距離から緯距および経距を計算して各測点の座標および面積を計算する演習を行なう。					
予習					約2時間
復習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、課題を行う			約2時間
19.（演習）トラバース測量					
観測した水平角と側線の距離から緯距および経距を計算して各測点の座標および面積を計算する演習を行なう。					
予習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み、角測量・トラバース測量について把握しておく			約2時間
復習					約2時間
20.（演習）トラバース測量					
観測した水平角と側線の距離から緯距および経距を計算して各測点の座標および面積を計算する演習を行なう。					
予習					約2時間
復習		教科書の関連部分及び配布した資料を読み直し、課題を行う			約2時間
21.（実習）トラバース測量					
トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。					
予習		教科書の関連部分を読み直し、トラバース測量を把握する			約2時間
復習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
22.（実習）トラバース測量					
トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。					
予習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
23.（実習）トラバース測量					
トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。					
予習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
24.（実習）トラバース測量					
トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。					
予習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習		トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間

○授業計画	科 目 名 担当教員	測量学及び実習（Lecture and Practice of Surveying） 池見 洋明	授業コード	L020202
学修内容				
25. (講義)地形測量 地形測量について学びます				
予習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
26. (実習)トラバース測量 トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。				
予習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
27. (講義)写真測量 写真測量について学びます				
予習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
28. (実習)トラバース測量 トータルステーションを用いた角測量・トラバース測量の実習を行う。				
予習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
復習	トラバース測量の実習結果をまとめる			約2時間
29. 期末試験(実技) トータルステーションの設置から一回計測の実技試験を行う				
予習	教科書の所定の箇所を読み直し、トータルステーションの使用方法について確認する			約2時間
復習	期末試験の内容を復習する			約2時間
30. 期末試験(実技) 29と同じ				
予習				約2時間
復習	教科書の所定の箇所を読み直し、トータルステーションの使用方法について確認する			約2時間
31. 期末試験(筆記)				
予習	教科書を読み直し、期末試験に備える			約2時間
復習	期末試験結果を復習する			約2時間
32. 期末試験(実技試験予備日) トータルステーションの設置から一回計測の実技試験を行う				
予習	教科書を読み直し、期末試験に備える			約2時間
復習	期末試験の内容を復習する			約2時間